



産休サンキュープロジェクト・ニュースレター

2019年4月号

Vol. 12



防災に関するアニメ映画の一場面(上)と映画に集中する住民たち(左)



事業報告

「さあ、映画の時間だよ！」

～歌とダンスと映画で、村に意識改革と行動変容を！～

「ルワンダ」という国名を聞いて、「1994年の大虐殺」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。しかし、ルワンダは、大虐殺から四半世紀の間に国民の和解が進められ、平均経済成長率8%という著しい経済成長を遂げており、ルワンダ政府は2020年までに中所得国入り(一人当たりのGDPが2000年の220米ドルから2020年には1,240米ドル)を目標に掲げるほど情勢が安定しています。首都キガリでは、道路も舗装され、清潔なレストランやカフェもにぎわっています。

一方、健康、教育、所得という3つの側面にかかる達成度の指標である人間開発指数で、ルワンダは189カ国中158位で、アフリカ域内でも53カ国中25位です(UNDP2018)。その他のアフリカ域内での順位は、マラリア感染率ワースト3位、農村部における基礎的飲料水の利用率ワースト17位、下痢の際の経口補水液による治療率ワースト11位など各々において、アフリカ域内で下位三分の一に属しています。

こうした課題を解決するには、単に蚊帳を配付したり、水道設備を整えるだけでは、解決できません。地道に住民たちに働きかけ、病気の原因は何か、病気の症状は何か、病気にかかっ

たらどのように対処すればいいのか、そもそもどのように予防できるのか、を教えていくことが大切です。赤十字では一人でも多くの人が耳を傾け、理解し、意識改革と行動変容につながるよう工夫した健康教育を行っています。

日本赤十字社(以下、「日赤」)は、国際赤十字・赤新月社連盟を通じて、ルワンダで防災や健康教育に関するアニメ映画の上映を支援しています。2018年は、ルワンダでは、カヨンザ県、ルワマガナ県、カモニ県、ムハンガ県、ルハンゴ県、フイエ県、ギサガラ県、ルバブ県の8県で上映しました。



日赤職員のデジカメに映る写真に興味津々のルワンダの子どもたち

「産休サンキュープロジェクト」とは

出産を機に、生まれたいのちと支えてくれる周囲の人に感謝し、日本で産休・育休を推進し、寄付によって開発途上国の子どもとお母さんを支援し、一緒に子どもたちを育てていくプロジェクトです。

毎年4月・11月に発行されるニュースレターでは、ご支援いただいている事業報告のほか、親として共感できるような出産・育児の話、子どもを取り巻く保健リスク、日本での子育ての知識/子どものケガの手当と予防/疾病予防等を紹介していきます。

社内外のプロジェクト支援者への配布や、社内報等での啓発、あるいは貴社・貴団体のCSR活動報告等にご活用ください。

どうやって映画を上映しているの？

～ 映画上映の流れ ～

2019年3月に日赤職員は、健康に関する映画上映会を視察するために、ルワンダ南部に位置するフイエ県を訪問しました。

私が
ご紹介します！



アフリカ支援担当
鹿島優子職員

1 軽トラックで機材(スクリーン、音響、マイク、スピーカー、発電機、変圧器、パソコン、景品など)を運びます。

フイエ県支部事務所から
車で1時間30分



2 運んできた機材を設置します。



3 音楽を流すと、それを聴いた住民たちが続々と会場に集まってきました。

4 会場では歌と音楽に合わせて住民たちが踊ります。赤十字ボランティアはキレイのあるMCで会場を盛り上げたり、音量を調節したりと大忙しです。



5 今日は、手洗いと栄養バランスの大切さを教えるため、会場の子どもたちと手洗いを実践し、バランスのとれた食事を提供します。



6 健康に関するクイズを出し、正解者には景品をプレゼント。今日は、クイズだけでなく、赤十字の健康教育で学んだことをしっかりと実践している家庭を表彰し、記念品(台所用品一式)を贈呈しました。



7 白いビニールシートをスクリーンとして活用し、映画の上映開始。テーマは子どもの栄養改善についてです。

9 映画上映会の終了です。赤十字ボランティアが機材を片付けます。今日は住民たちにとって特別な一日となりました。



8 映画上映後にまたクイズを出します。映画上映後は、上映前に比べて正解率がぐう〜んと上がります。



ルワンダの地図
★:首都キガリ、○:フイエ県

以下のURLから、実際に健康教育で使用している映画をご覧いただけます。
 コレラ予防 <https://www.youtube.com/watch?v=jG1VNSCsP5Q>
 栄養改善 <https://www.youtube.com/watch?v=5IXrLxvkEwo>
 土砂災害対策 https://www.youtube.com/watch?v=eIC_ytuXcuY

ルワンダの受益者からのメッセージ

映画上映会に参加した受益者からの心温まるメッセージをご紹介します。



写真左から、ルワンダ赤十字社ムハンガ県支部責任者ミナニ職員、ルワンダ赤本社マテュー広報課長、ファブリス君、日赤国際部長

ウリムベンシ ファブリス
Urimubenshi Fabrice(13才)

日本人がここの村にきてくれて、僕たちと一緒に時間を過ごしてくれたことがとても嬉しくて、刺激的でもあった。なぜなら、外国人がきたことがないんだ。

今困っていることは、着替えの服がないこと。洋服がほしい。

ハブムギシャ エマニュエル
Habumugisha Emmanuel (34才)

コレラ予防の映画を観ました。今日学んだことを、健康や衛生環境を改善するために、すぐに実行したいです。深い穴を掘って、良いトイレを建設しようと思います。

日本からきてくれた日本赤十字社の方のお話をきいて、自分も限られた資源と力でどうやって地域に貢献できるかということを考えるきっかけになりました。

日本の皆さんの支援を嬉しく思い、そして感謝しています。これからも支援していただけることを期待しています。

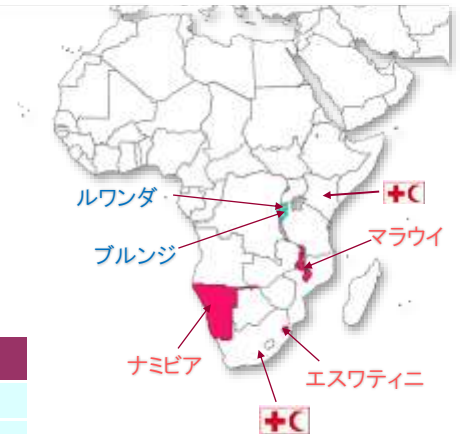


ルワンダ赤十字社マテュー広報課長(左)と受益者のエマニュエルさん(右)

お知らせ

2019年の支援対象国を紹介します

東アフリカ地域保健強化事業と南部アフリカ地域感染症対策事業の支援対象国の見直しを行い、8カ国から5カ国に変更しました。これに伴い、これら2つの事業を支援している産休サンキュープロジェクトの支援対象国も5カ国に変更します。



<2019年度支援する国と活動>

	支援対象国	活動内容
東アフリカ	ルワンダ	アニメ映画とラジオ放送を通じた保健・防災教育
	ブルンジ	アニメ映画とラジオ放送を通じた保健・防災教育
	国際赤十字・赤新月社連盟 東アフリカ準地域事務局	上記2カ国への支援にかかる事業管理
南部アフリカ	ナミビア	キッズクラブ(学童保育)の運営、簡易住居の建設、就学支援、衛生用品や毛布の送付 HIV感染者及び貧困層の家庭に対する家庭訪問と訪問看護
	エスワティニ (旧国名: スワジランド)	診療所の運営、HIV・結核の検査・カウンセリング・治療、HIV・結核感染者に対する食糧支援、健康教育
	マラウイ	託児所の運営、生計支援(家畜の供与)、HIV感染者市民グループのピアエデュケーション、世界エイズデーの支援、台所用品の配付
	国際赤十字・赤新月社連盟 南部アフリカ準地域事務局	上記3カ国への支援にかかる事業管理

ご支援有難うございます

賛同企業 5社(2019年4月現在)
住友商事株式会社様
SCSK株式会社様
ヤフー株式会社様
木村情報技術株式会社様
株式会社ローズマロウズ様
(賛同開始順)

賛同企業を募集
中です。多くの企
業の皆さまのご協
力お待ちしております。





母と子の命を守るしくみに注目が集まっています。
そのしくみについて北見赤十字病院に聞きました！



近年、妊産婦のメンタルヘルスをケアすることがより重要と考えられています。メンタルヘルスとは精神疾患の有無ではなく、妊産婦が安心して生活を営み、ほどよく十分な愛情をもって子どもと向き合うことのできる心の状態を意味すると言われています。

妊娠・出産・育児期間中、多くの方が体験する「イライラ」や「もやもや」した感情は、ホルモンのアンバランスから誘発されると考えられています。周産期のメンタルヘルスを守るために医療機関の取り組みも変化しています。厚生労働省は2015年から医療機関が妊娠期と産後にうつスクリーニングを実施する事業を開始しています。また、健診費用を助成することで受診しやすい環境を推進しています。

北見赤十字病院では、妊婦健診の項目の一つに、妊婦の心の悩みスクリーニングからその相談まで加えて、診察の幅を広げています。スクリーニングを受け、自分自身の心と体の状態を知ることは、早期に出産や産後の準備すすめるためにも大切なことです。

マタニティーブルーやベビーブルーなどの一時的な気持ちの落ち込みでも、精神疾患につながる場合もあります。出産後のスクリーニングでは

○「育児支援チェックリスト」

○「エジンバラ産後うつ病質問」※

○「赤ちゃんへの気持ち質問」

※ 国内外で最も広く採用されているママの産後うつの兆候を調べるための自己記入式質問票です。うつ病によく見られる症状をわかりやすい質問にしたもので、信頼度が高いです。



などを用い、産後2週間健診や1ヶ月健診で、助産師、臨床心理士、精神看護専門看護師（リエゾン）が介入できる施設も増えています。当院では精神科医師や地域保健師など多職種が連携・協働し、会議を行う取り組みを始めました。妊産婦のメンタルヘルスをケアすることで、児童虐待や妊産婦の自殺を防ぐことができます。

子育てやご自身の心配事などは、お住いの市区町村でも相談することができます。些細な事でも、悩みを一人で抱えずに相談しましょう。



「たんぽぽ」の会の様子



北見赤十字病院では母乳育児を推進しています。産後サポートの機会として「たんぽぽ」の会を開催しています。お母さんの悩み相談や交流の場として親しまれています。

北見赤十字病院

検索

産休サンキュープロジェクトに関するご意見・ご要望をお寄せください。特に、ニュースレターの内容については、参加企業・団体の皆様とのコミュニケーションツールとなりますので、ご提供いただける情報、どのような情報がお知りになりたいか、素朴な疑問からご感想まで、是非、皆様の声をお聞かせください。また、ニュースレターは、以下のリンクからもダウンロードできます。

<http://www.jrc.or.jp/activity/international/document/#産休nl>

【お問い合わせ】 日本赤十字社 国際部 開発協力課 産休サンキュープロジェクト担当

電話: 03-3437-7089

Eメール: sankyuthankyou@jrc.or.jp

